

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部課程第144期）

福岡県北九州市 財政・変革局 西部市税事務所 井上 麻美

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

令和7年5月8日から9月12日までの約4か月間、自治大学校の研修生として貴重な経験をさせていただきました。

研修受講を検討されている方の参考になればと思い、研修について振り返ります。

2 派遣決定から入校まで

自治大学校への派遣の話をいただいたのは2月頃のことでした。以前に派遣経験のある先輩から「機会があればぜひ参加した方がいい」と伺っていたこともあり、即座に快諾しました。

入校までの約1か月間は、市の職員研修所にて事前課題やeラーニング（憲法や民法などの法制課目）に取り組みました。準備期間は十分にありましたが、理系出身で法制課目や経済課目の勉強経験が乏しかったため、正直なところ時間が足りないと感じるほどでした。

3 法制課目・その他講義

研修前半は、憲法、民法、行政法、地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度といった法制課目が中心でした。昇任試験で学んだ内容もありましたが、体系的に法律を学ぶのは初めてで、大変勉強になりました。特に地方自治制度や地方公務員制度は、その制定背景まで深く学ぶことができ、理解が深まったと感じています。

法制課目の効果測定については、6月中旬からの約1か月間、久しぶりの試験勉強

に頭と手の疲労が激しかったこともよい思い出になっています。試験勉強対策をしたことで、より知識の定着が図られました。

他の講義では、EBPMによる政策立案といった基礎的なものから、人口減少を見据えたAI・DX活用といった地方公共団体を巡る最新の政策課題に対する講義まで、幅広い講義を受講しました。第一線で活躍されている講師の方々の説明は非常に分かりやすく、内容だけでなくプレゼンテーション技術も学ぶことができました。このように幅広い分野の講義を網羅的に受講したことで、知見を広げることができました。

4 演習課目

研修後半は、事例演習（テキスト型・持寄型）、模擬講義、政策立案研修といった演習課目が中心となりました。

事例演習（テキスト型・持寄型）では、それぞれの地域課題について話し合い、その解決策を検討しました。議論を通じて、県と市では課題に対する視点が異なることに気づかされました。市民と接する機会が多い市では、市民に近い視点で課題を捉えがちですが、県ではより広域的な視点で見据えている点は非常に参考になりました。

模擬講義では、普段、資料の形式は気にしても話し方まで意識することがなかった私にとって、非常に多くの学びになりました。他の研修生のテクニックも含め、今後のプレゼンテーション時の参考にしていきたいと思います。

研修のメインである政策立案演習では、首長への政策提言を想定して取り組みました。普段の業務では、首長からの指示で政策

提言を行うことはあっても、自ら課題を発見し提言する機会の中々ありません。一から課題を見つけ出し、その解決に向けて課題整理や先進事例の検索などを試行錯誤しました。外部・内部教官の的確なご指導とチームワークに助けられ、苦勞しながらも楽しく報告書をまとめることができました。

また、政策立案発表においても、聴衆を意識したプレゼンテーションを試行錯誤しました。結果として受賞は逃しましたが、班員と多角的に議論を重ねて提言内容を深化させる過程は、非常に貴重な経験となりました。

5 生活全般について

研修生は、北は岩手県、南は大分県からの32名で、人数は少なかったものの、その分全員と様々な話をすることができました。16名ずつ2フロア（麗沢寮7階・8階）に分かれて寮生活を送りましたが、なぜか8階の研修生も皆が7階フロアに集まり、全国から持ち寄ったお酒を片手に仕事や地元の話題で盛り上がる時間が何よりも楽しかったです。

前任者から「太るから気を付けて」と言われていたため、トレーニングルームも利用して健康管理に努めました。ただ、お酒を飲みすぎて二日酔いになったことは反省点です。

休日には研修生と高尾山登山、宇都宮餃子・日光東照宮、富山・石川旅行など、普段なかなか行けない場所へ足を運ぶことができ、研修後半には授業前後に築地市場や東京タワー、チームラボボーダレス麻布台へ行くなど、東京も満喫しました。

6 おわりに

4か月と少し長く感じられた研修期間も、始まってみればあっという間でした。この研修で得られた最大の成果は、全国の自治

体で活躍する仲間と出会えたことです。普段とは異なる環境で、全国の自治体職員と寝食を共にし、学ぶ機会のはめったにありません。この研修は仲間との出会いはもちろん、自分自身を見つめ直す良い機会にもなりました。

4か月という期間は長く感じるかもしれませんが、もし研修への参加を迷っている方がいれば、ぜひおすすめしたいと思います。

最後になりますが、この機会を与えてくださった北九州市をはじめ、家族や同僚、そして充実した研修環境を整えてくださった自治大学校職員、講師の皆さまに、心から感謝申し上げます。

また、4か月間を共に過ごした第1部課程144期の同期の皆さまにも、学びや思い出を共有できたことに心から感謝しています。



特等席で観覧した「立川まつり国営昭和記念公園花火大会」